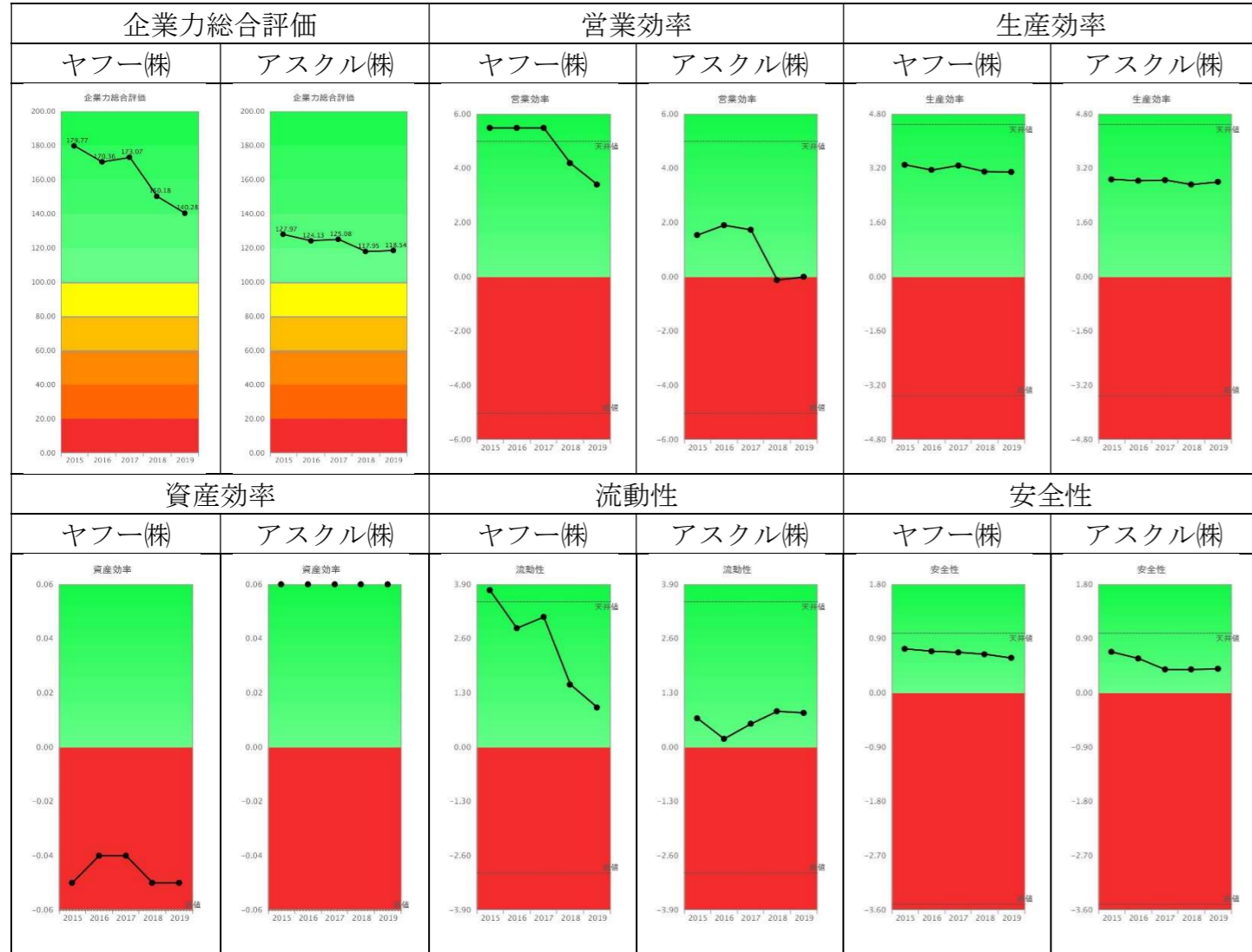


ヤフー株式会社は 2019 年 7 月 24 日、子会社のアスクル株式会社が 8 月 2 日に開く株主総会の取締役選任議案について、アスクルの岩田彰一郎社長の再任に反対する議決権を行使したと発表した。アスクル株が運営する EC サイト「LOHACO」をヤフー株へ事業譲渡をしやすいするために社長を変えるのではとの憶測です。

2015～2019 年までの 5 年を分析してみました。



アスクル株の資産効率・流動性を除いて、企業力総合評価、親指標が全て悪化しています。真偽のほどはわかりませんが、Yahoo ショッピングと LOHACO の統合し、Amazon・楽天を追い抜け追い越せが目的なら、グループ内で採めている場合ではありません。

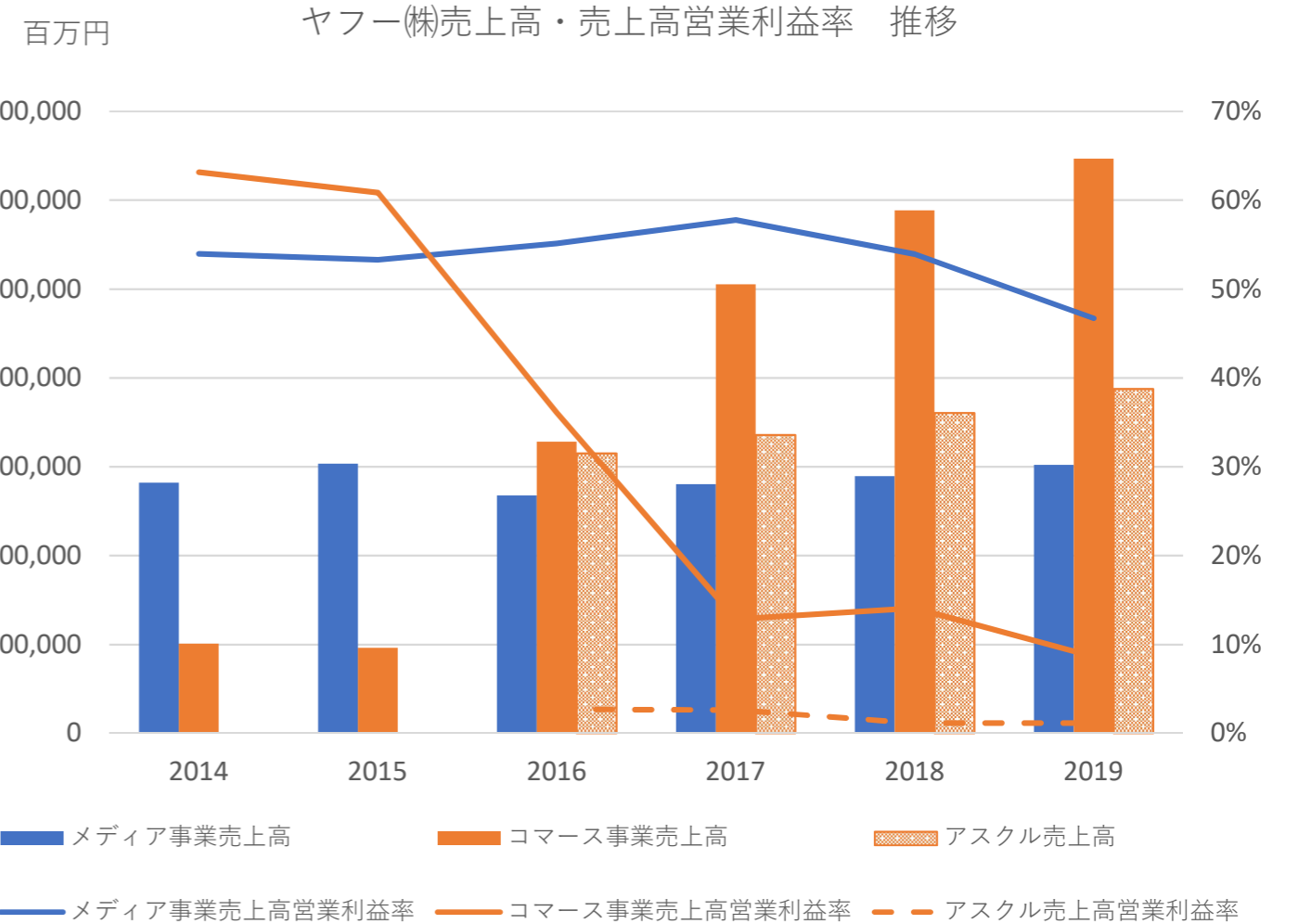
アスクル株を子会社化した 2016 年以降のヤフー株のグラフはアスクル株の財務諸表を連結したデータになっています。ヤフー株の悪化は、元々企業力低位のアスクル株を子会社化したことが原因の一つと推察できます。

ヤフー株を見てください。

ヤフー株の企業力総合評価は連続悪化しています。2017 年のみ改善していますがこれは流動性の改善であり、突発的なものですから、連続悪化と表現しました。連続悪化は役員会が無機能化している可能性があります。社内はカリスマ孫氏の意向が優先されるといわれており、頷けます。

SPLENDID21 では、決算書と従業員数という定量情報だけで、定性情報も抽出できます。

ヤフー株の営業効率をセグメント別にみていきましょう。



ヤフー株はメディア事業、コマース事業、その他事業（僅少・非グラフ化）の3本柱です。コマース事業にアスクル株が入っているため、それを取り出しています。コマース事業の 2016 年の売上高伸長はアスクルの子会社化が大きく貢献しています。その後アスクル株の売上高は伸び悩んでいます。この伸び悩みが、ヤフー株を刺激し、紛争の原因になったのでしょうか。

Amazon のネット通販売上高 1229 億 8700 万ドル・13 兆 5286 億円 (@110) を追い抜け追い越せがスローガンであるならば、規模にして Amazon の 2.9%、売上高 3985 億円のアスクル株のみではインパクトが低く違和感があります。更に言えば、成長が見込まれるといわれている「LOHACO」の売上高は 513 億 95 百万円（対 Amazon 0.4%）であることを考えれば猶更です。

まとめ

ヤフー株は、アスクル株騒動があっても、メディア事業の売上高営業利益率の悪化、アスクル株の売上高営業利益率の低位安定化の課題を見逃さないことが求められます。

編集後記 一代で 1 兆円企業に育て上げるような経営者は夢を追いかけているのです。SPLENDID21 は企業を社会の公器としたかのように存続・成長を定義します。孫社長のお気持ちに沿わない分析結果であるなら、分析の目的の違いに起因します。(^-)-☆ 文責 JY
〒541-0052 大阪市中央区安土町 1-6-19 プロパレス安土町ビル 7 階 D 号 株式会社 SPLENDID21
tel 06-6264-4626 ✉ info@sp-21.com <https://sp-21.com>